

2015年3月3日

報道関係各位

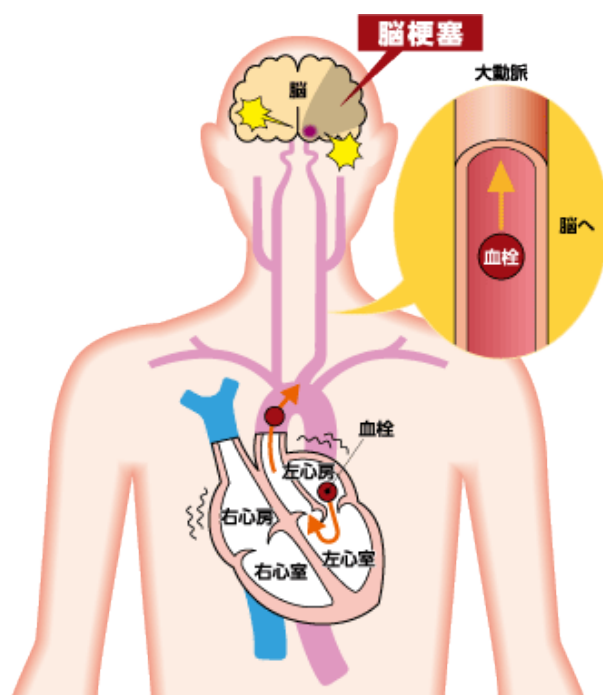
公益社団法人 日本脳卒中協会
特定非営利活動法人 日本不整脈学会

心房細動からの脳梗塞予防をめざして 心房細動週間事業を開始

公益社団法人 日本脳卒中協会（所在地：大阪市阿倍野区、理事長：山口武典、以下「日本脳卒中協会」）と、特定非営利活動法人 日本不整脈学会（所在地：東京都千代田区、会頭：奥村 謙、以下「日本不整脈学会」）は、不整脈の一種である心房細動から生じる脳梗塞を予防するために、「脈の日（3月9日）」から1週間を「心房細動週間」とすることを昨年提唱し、今年から心房細動週間とその前後に心房細動に関する市民啓発活動を、厚生労働省、日本循環器学会、日本神経学会、日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会、日本脳卒中の外科学会のご後援のもとに、実施します。

脳卒中について

脳卒中は、寝たきりや要介護の状態になる最も多い原因で、治療には我が国の総医療費の1割弱が費やされ、死因の第4位を占める疾患です。入院して治療を受けている患者はがん疾患の1.5倍、心臓病の3.5倍を数え国民病ともいふべき病気です。脳卒中を起こすと、たとえ死に至らなくても患者は運動障害、認知機能障害などの後遺症に苦しみ、家族には精神的にも経済的にも大きな負担が掛かって、家庭崩壊にも繋がるなど、大きな社会問題となっています。脳卒中の患者数は、現在279万人と推測され、2020年まで増加しつづけると予測されています。



心房細動による脳梗塞について

脳卒中の約6割が脳梗塞（血管が詰まるタイプ）で、心臓にできた血の塊（血栓）が脳や頸の動脈につまることによっておこる脳梗塞（心原性脳塞栓症）は、脳梗塞の2-3割を占めます。その梗塞のサイズが大きいために死亡率が高く（2割）、歩行に介助を要したり、寝たきりなどの重い後遺症が残る場合が多いのです（4割）。心原性脳塞栓症の原因の3/4は心房細動で、心房細動からの心原性脳塞栓症の発症予防は極めて重要です。

心房細動からの脳梗塞の予防について

心房細動患者が適切な抗凝固療法（血液を固まりにくくする治療）を受けると、6割以上の脳梗塞を予防できることが分かっており、その普及が望まれます。残念なことに、最近の調査によると、心房細動患者の約半数しか抗凝固療法を受けていません。心房細動患者の半数は無症状ですが、症状がなくても脳梗塞の危険性が高いことには変わりはありません。無症状の心房細動を見つけることも重要であり、脈拍のチェックや心電図検査によって早期発見・受診をすることが、心房細動からの脳梗塞予防に不可欠です。

心房細動に関する最近の動向

原因不明の脳梗塞は全体の20～40%を占めるといわれていますが、これらの患者を心電図で丹念に調べると、高率（25%）に心房細動発作が見つかることが最近の研究でわかりました¹⁾。本人も気が付かないうちに心房細動を起こし、心原性脳梗塞を起こしてしまった可能性が高いと考えられます。

これらの脳梗塞を予防するためには、心房細動を見つけだして適切な抗凝固療法をうける必要があります。心電図検査を頻回に行ったり、心電計を体内に植え込んだりして調べることでその発見率を上げることはできますが²⁻³⁾、とても大変で、現実的ではありません。そこで、自分で脈拍をチェックして、無症状の心房細動を見つけて、脳梗塞予防の治療を始めることが重要です。

脳梗塞の予防には抗凝固療法が行われますが、近年までワルファリンが唯一の抗凝固薬でした。ワルファリンは患者毎にその人に合った投与量を調節してうまく効き目をコントロール出来ればよい効果が得られます。しかし、コントロールが難しい場合も多く、効き目が不十分で脳梗塞を起こしたり、強く効きすぎて出血等の合併症をおこしたりすることも少なからずあります。これが抗凝固療法を受けるべき心房細動患者に普及してこなかった原因の一つです。

ここ数年間で、患者毎の投与量の調節がほとんど要らず、ワルファリンと同等以上の効果・安全性を有している「新規抗凝固薬」が次々と出てきました⁴⁻⁷⁾。現在では4剤の新規抗凝固薬が使えるようになりました。これらの薬により、必要な患者に抗凝固療法が届けられるようになることが期待されます。

平成26年度「心房細動週間」啓発事業

心房細動週間・脈の日のポスターを作成し、日本脳卒中協会および日本不整脈学会会員の所属する医療機関を中心に掲示いたします。

「心房細動週間」のウェブサイト <http://shinbousaidou-week.org> を開設し、一般市民向けの情報を掲載しました。自分で脈をチェックする方法の動画も掲載しております。この動画については、より多くの方に見ていただくためにインターネットの動画サイトにも投稿しております（YouTube 検索「脈の自己チェック」）。加えて、医療・保健従事者が啓発活動に利用できる資材（心房細動週間のポスター等）をダウンロードできるようにしております。

公益社団法人 日本脳卒中協会について

脳卒中に関する正しい知識の普及及び社会啓発による予防の推進ならびに脳卒中患者の自立と社会参加の促進を図り、国民の保健、福祉の向上に寄与することを目的とし、平成9年3月に任意団体として設立され、平成17年3月に社団法人として認可後、平成24年10

月 1 日に公益社団法人に移行しました。平成 26 年 3 月現在、46 都道府県に 48 の支部があり、脳卒中を発症した患者さんやご家族を始め、医療従事者、行政・福祉関係者、一般の方々への情報提供や調査研究活動などを行っています。日本脳卒中協会に関する詳細は、ホームページ (<http://jsa-web.org>) をご参照ください。

特定非営利活動法人 日本不整脈学会について

昭和 61 年、心臓ペースメーカ等に関する調査・研究事業を目的とし、日本心臓ペースング学会として設立されました。平成 7 年に日本心臓ペースング・電気生理学会に改称され、平成 17 年 9 月に特定非営利活動法人日本不整脈学会として認可され、現在に至っています。心臓病、とくに不整脈に関する研究・発表および講演・研修・セミナー等の開催、不整脈を中心とした出版等の啓発普及事業、不整脈に関連する学術調査・研究事業、そして心臓病の診断・治療に係わる人材育成を行うとともに、学術文化および医療の発展に寄与することを目的とし、鋭意活動を行っています。平成 25 年度の会員数は 5,964 名（医師会員 3,776 名、コメディカル会員 2,188 名）です。日本不整脈学会に関する詳細は、ホームページ (<http://jhfs.or.jp/>) をご参照ください。

文献

- 1) Neurology 2013;80: 1546-1550.
- 2) N Engl J Med 2014; 370: 2467-2477.
- 3) N Engl J Med 2014; 370: 2478-2486.
- 4) N Engl J Med 2010; 363: 1875-1876.
- 5) N Engl J Med 2011; 365: 883-891.
- 6) N Engl J Med 2011; 365: 981-992.
- 7) N Engl J Med 2013; 369: 2093-2104.

以上

お問い合わせ先
公益社団法人日本脳卒中協会
TEL: 06-6629-7378